

GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD

グッドデザイン・ニューホープ賞
評価のポイント

評価する際の着眼点

1.自由な発想を歓迎します

社会規範や慣習にとらわれず、オリジナルな視点から、新しい世界を切り拓くアプローチに注目します。

2.未知の可能性を重視します

応募作品自体は完成度が求められますが、それが社会に出た際に「未完成」と見える部分があっても、その中に込められたアイデアの種や他にはない視点、新しい可能性を高く評価します。

3.共創の連鎖を重視します

個人の成長だけでなく、周囲や次世代にどのように波及するかを重視します。

審査の理念

デザインそのものに込められる普遍的な価値・方向性を示すものです

人間 (HUMANITY) もの・ことづくりを導く創発力

使いやすさ・分かりやすさ・心地よさなど、ユーザー視点の細やかな配慮

本質 (HONESTY) 現代社会に対する洞察力

課題設定が誠実で的確か、問題の核心を真摯に捉えているか

創造 (INNOVATION) 未来を切り開く構想力

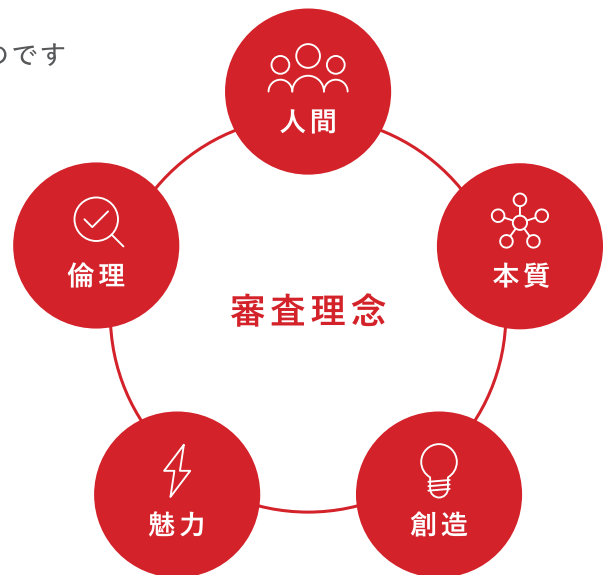
従来常識や規範にとらわれず、新しい発想があるか

魅力 (ESTHETICS) 豊かな生活文化を想起させる想像力

見た目や体験の質感、表現によるワクワク感や感動をもたらすか

倫理 (ETHICS) 社会・環境をかたちづくる思考力

環境負荷・社会課題・多様性への配慮など、責任ある姿勢を持っているか



審査の視点

審査プロセスにおける具体的な評価の切り口やアプローチを示すものです



- 使いやすさ・分かりやすさ・親切
- 共感を得るデザイン
- 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するか



- 新しい文化やコミュニケーションの創出
- 持続可能な社会の実現への貢献
- 新たな手法・概念・様式を通じた価値提案



- アイデアが実際に形となるための試行やプロトタイピングが行われているか
- 独創的なコンセプトを実現するために課題へのアプローチやプロセスに工夫がみられるか



- 過去の文脈・蓄積を活かした新たな価値の提案
- 中・長期的な継続可能性・発展性
- 時代の変化に伴う柔軟な改善・アップデート

評価のポイント

審査理念×審査の視点を かけあわせた複眼的チェックをもとに審査を行います

各理念は「デザインの本質的な価値」を示し、
各視点は「その価値がどのような側面で現れているか」を評価するための方法論と位置付けます。

		方法論			
		人間的視点	探究的視点	社会的視点	時間的視点
デザインの本質的な価値	人間	ユーザーへの配慮、共感や感情の充実	体験の具体化に向けた試行、プロトタイプング	異なる価値観や背景を意識した配慮	歴史や伝統と現代の融合でユーザー体験の深化
	本質	課題への核心的なアプローチ、真摯な姿勢	問題の根本を追求する検証や試行	社会的課題に対する誠実な姿勢、価値観の再定義	過去の知恵を参考に、持続可能な価値創出を目指す
	創造	独自の感性でユーザーの創造性を引き出す	革新的なコンセプトの試作、実践的な発想	新たな文化やライフスタイルの提案	時代変化に柔軟に対応する進化的なアイデア
	魅力	視覚的・感性的な訴求力、体験の豊かさ	具体的表現や試作により魅力が実現されるか	共感と呼ぶデザインで社会に新たな美意識を提供	継続的な改善を通じ、魅力が高まり続ける可能性
	倫理	安全性、信頼性、多様性への配慮	制作・検証過程での倫理や責任への意識の確認	環境・社会への持続可能な配慮、社会的責任	長期的な視野での倫理的アプローチ、変化への柔軟性

※このマトリクスはあくまで一例です。各交点にどのような具体的評価基準を設けるかは、実際の審査や作品のありように応じて微調整を行います。

審査理念×審査の視点をかけあわせた複眼的チェック

例1：人間的視点×人間・魅力・倫理

- ユーザーが使いやすい／共感できるだけでなく、豊かな感性に訴えかける仕組みか
- 弱者や多様な人々にも開かれており、環境・社会への配慮があるか
- 実際の使用状況を想定したときに、ユーザーが心地よく感じ、積極的に参加したくなる要素が含まれているか

人間的視点



人間・魅力・倫理

例2：探究的視点×本質・創造

- 提示されたテーマや背景に対して、真に解決すべき問題の本質を見極める取り組みがあるか
- 独自のコンセプトをもとに、課題に対して斬新で実践的な解決策を構築する姿勢がうかがえるか
- 試行錯誤の過程や検証結果が具体的に示され、フィードバックを反映して継続的に改善される構造が見受けられるか

探究的視点



本質・創造

例3：社会的視点×倫理・人間・本質

- 新しい文化やライフスタイルを生み出す提案力があるか
- 持続可能性（環境・社会課題への配慮）や、社会に根ざした誠実な姿勢があるか
- 異なる価値観や生活背景を持つ人々の視点が十分に考慮され、利用者が一定のメリットや共感を得られる設計になっているか

社会的視点



倫理・人間・本質

例4：時間的視点×本質・創造・魅力

- 歴史的文脈や過去の知恵を活かしながら、新たな魅力や価値を生み出しているか
- 長期的なビジョンがあり、継続的な改善や発展が見込めるか
- 技術進歩や社会情勢の変化に合わせ、適宜改善・アップデートが可能な設計思想や戦略が組み込まれているか

時間的視点



本質・創造・魅力

※上記はあくまでも例示です。実際には4つの視点と5つの理念が多層的に重なり合い、相互に強化し合うほど「優れたデザイン」と言えます。



JDP

公益財団法人日本デザイン振興会
Japan Institute of Design Promotion